

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 433号	氏 名	金子 玲大
審査委員	主査 鎌 田 磨 人 副査 上 月 康 則 副査 山 中 英 生		
学位論文題目 非専門家による農地空石積み修復活動の再生産過程とマネジメント			
審査結果の要旨 中山間地域の農地の空石積みは地縁・血縁による相互扶助活動によって維持してきたが、現在では数多くの空石積みが崩れたまま放置されている。一方で近年、環境負荷の低さや減災に寄与する空石積みの構造と、地域づくりや防災意識の向上といった副次的な効果をもたらす空石積みの修復行為が再評価されており、地域内外の自発的な参加者のコミュニティが石積み修復活動の担い手となる事例が見られるようになっている。こうした石積み活動を継続するためには、継続的な参加や活動の立ち上げなど活動の中心的な行動に至る行為を後押しすることが必要である。 本研究は、こうした視点から、中山間地域の農地の空石積み活動の継続において最も重要な役割を果たす参加者、オーガナイザーに着目し、修復活動の再生産を促進するためのマネジメントのあり方を明らかにしたものである。 具体的には、第一に著者らが主催している石積み学校の参加者への調査をもとに、参加動機、参加を促進させる要素を分析し、参加の継続や活動の立ち上げといった行動変容に影響する参加を通じた経験から、内発的動機を高めるマネジメントを導いている。次に、熱心な参加者、オーガナイザーにインタビュー調査を実施し、質的分析を実施して、参加者の参加動機、情報源、内容等を分析して、参加経験者への好意態度の形成が有効であることを明らかにするとともに、参加による経験が、石積み修復技術の「熟達」、自分でも実践できるという「自信」、他者との関わりを通じて経験を深める「他者との相互作用」、実践を通じて自らの知識を点検し、知識を構築す			

る「実践と省察」、経験に形を与える物象化とそれを共同体の参加を通じて実践に埋め戻す「意味の交渉」の5つの要素があることを明らかにしている。そして、この経験を提供するために、「熟達」と「自信」は、石積み修復技術の知識の枠組みを教授することや、行為の結果を評価するなどの客観主義的なアプローチのマネジメントを提示し、「他者との相互作用」、「実践と省察」、「意味の交渉」の経験を提供するために、相互作用や相互構成性を高める構成主義的なアプローチのマネジメントを具体的に提示することに成功している。

以上本研究は、国土保全上、景観保全上の重要なインフラとなる農地石積みの保全に対して、新たな現代的アプローチとその持続可能性において重要な視点と解決策を提示しており、本論文は博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。